

産地生産基盤パワーアップ事業の取組事例(28年度:計画作成主体:山都地域農業再生協議会)(熊本県)

取組の概要

対象品目 : 露地野菜(キャベツ)
(産地面積:122ha)
主な取組主体:上益城農業協同組合
成果目標 : 販売額の10%以上の増加
基準 269,918円/10a
(H23~27年の5年中3カ年平均)
目標 296,910円/10a (H30年度)
導入施設等 : 整備事業(真空予冷施設、保冷施設
整備など)



熊本県
山都町
名連川地区

ポイント

【産地の課題及び取組方向】

取組実施地区は1970年代に経営規模拡大による農業所得の増加を目的に国営パイロット事業による大規模な農地開発が行われたものの、近年、農家の高齢化や担い手不足により事業効果の低下と耕作放棄地の増加が課題となっていた。

そのため、高冷地野菜の中で地域の立地条件を活かせるキャベツの産地化を推進し、農業所得の向上と担い手の確保に併せ耕作放棄地の解消を目指す。



【産地の体質強化に向けた方策】

- ①キャベツの高品質化のため、最新の真空予冷施設の整備
- ②安定生産に向けた共販体制の増強のため、保冷施設の整備

産地体制

地域の生産者、JA、山都町が一体となり、事業を推進。

地域における独自の取組

〈主な取組〉

- 安定生産に向けた機械導入実験の実施
- 機械導入、栽培技術、営農支援
- キャベツ部会による規模拡大推進

取組成果

- 最新の真空予冷施設の導入により高品質安定生産を確立した。
- 計画的な販売額増加を行うことにより生産者の所得向上、作付面積の増加や耕作放棄地の解消につながり、キャベツの産地強化を実現した。



販売額が69%増加
(達成率698.0%)

